

第71回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

洗足学園高等学校 1年

野元 志唯

課題②

世界の平和と安全を守るために国連がいま果たすべき役割とは何か。

副題

宗教をタブー視しない多様性

私は、クリスチャンです。

現在この世界では、宗教問題を起点として、たくさんの戦争が行われています。大きな例の一つが、パレスチナ問題。お互いの信仰心により、長年にわたって、戦争が繰り返されている問題です。そんなニュースを見て「宗教があるから戦争が起こる、宗教なんてなくなってしまう方がいい」そんな風に思っている人も多いのではないのでしょうか？しかし、私はその考えには反対します。宗教は、簡単になくせるようなものではありません。この多様性を認め合う社会の中、個人が違うことを信じ、正しさを主張するのは、全く間違ったことではありません。ただ、戦争は、罪のない人々を殺しあう、残虐な行為です。決して認められることではありません。では、どうしたら良いのでしょうか？

私は去年十か月間、アメリカのロサンゼルスに留学していました。私が通っていた現地校はクリスチャンスクールで、私はキリスト教について多く学びました。正直、留学する前は、キリスト教について少しも知らず、興味もありませんでした。しかし、私は環境に恵まれており、多くの人のサポートによって多くのことを学び、留学から帰るころには洗礼も受け、クリスチャンになっていました。

ただ日本に帰ってきた今、クリスチャンとしての生き方に生きづらさを感じています。なぜなら、日本人は、宗教について話すことがタブーだと思っている人が多いからです。日本では、宗教について詳しく学びません。誰が神とされているか、聖地はどこか、そんな少しの情報を学んでも、何をどのように信じているか、その根拠はどこにあるのか、その教育は少しもなされていません。また、私がアメリカにいたとき、しっかりと聖書について学び信じている人もいましたが、親や周りの環境により自然とクリスチャンになる人も多くいたように感じました。それは、本当の信仰なのでしょうか？同様に、宗教をめぐる紛争地域に生まれた人々は、本当にその宗教についてよく知っているのでしょうか？彼らがなぜ戦っているのか、相手はなぜ違う意見を持っているのか、本当に知っているのでしょうか？

「宗教の自由」があるとは言えど、結局は家族や周りに影響されてしまう。それで果たして良いのでしょうか？宗教問題は、今後の世界を動かしていくであろう、とても大きな問題です。なのに、宗教についてよく知らない、自分の宗教しか学んだことがない、そんな人たちにあふれる世界で、果たして平和は訪れるのでしょうか？多様性を認め合うこの世の中で、私はもっと多様な宗教を認め合うことのできる社会になるべきだと思います。

そこで私は、「宗教教育の拡大」を訴えます。

国連では、紛争地域への教育支援が行われています。その中で私は、宗教についての教育を多く取り入れるべきだと思います。特に宗教問題により避難を強いられている子供達には、なぜ彼らが避難しなければいけない状態にあるのか、双方の意見を平等に汲み取った上で、しっかりと宗教の具体的な内容について教育するべきです。誤解を生まず今後彼らが大きくなった時に同じことを繰り返さないためにも、世界の宗教について深く学び、多様な価値観に子供の頃から触れることで、自分自身で何を信じるのかを選び、周りの環境に影響されない、多様な社会をめざしていくべきです。

私はただ、知ってほしいのです。一人一人に、より多くの宗教を。そのためには、教育は不可欠です。この先の社会、各国で、一人一人が様々な宗教についての知識を深め、お互いの違いを理解して尊重することができれば、今のような宗教間の紛争もなくなっていくのではないのでしょうか。ただ戦争を武力で解決するのではなく、宗教問題であっても、お互いの歩み寄りによって価値観を受け入れあうことが、今後の多様性の社会にとって、大切になってくるのではないのでしょうか。